

2020年度 八洲学園高等学校 第三者評価

第三者評価

氏名(ふりがな) 三井 明子(みつい あきこ)

経歴 一般社団法人 障がい者・高齢者じりつ支援機構 共同代表
社会福祉士 精神保健福祉士

評価日時:2021年 6月 2日

【2020年度八洲学園高等学校自己評価報告書(結果)の評価】

【講 評】

コロナ禍で、さまざまな制限があり、学校行事を含む多くの年度計画に影響があったにも拘らず、今までに経験のない緊急事態の中、変化にも対応しながら八洲学園高等学校全体で問題解決に取り組み、創意工夫しながら教育目標や運営目標が達成できたと評価できる内容です。

その背景には、学校内外の資源を活用しながら学校運営に工夫されていたこと、感染症対策の徹底した取り組みがあったからだと考えます。また、オンラインでの学習対応のため、教育のICT化の研究やオンライン機器の整備と拡充を行い、オンラインでの学習対応や生徒さんの個別対応を行うことで生徒さんは安心が得られたと思われます。

情報教育の中のICT教育設備において13%の教職員がC評価であったことは、現在までの環境整備や設備拡充に甘んじることなく、意識が高いからとも捉えられます。但し、加速的にICT化の環境の整備や取り組みは行われていることも承知しています。

新型コロナ感染拡大のような環境下でも学校運営を工夫して、変化にも対応して行うことが出来たのは、学校の長年の取り組みとして教職員のコミュニケーションの強化が有ったからこそだと考えます。例えば、概ね教育目標は達成できていると自己評価ですが、かねてより、教職員の連携と、研究や研修に力を入れてきたことで、教職員のベクトルが同じ方向を向いて学校運営が出来たことが大きいのではないかと考えます。緊急事態だからこそ、物事の考え方や、目指す方向が一致していたことで目標の達成に向けて大きな力となったと想像します。

八洲学園高等学校が“めざす学校像”に掲げているように、生徒さんは、学校で過ごす「時」が将来豊かな人生を送るために“生きる力が育まれ考える力が育まれる”機会になったと理解しています。この1年は、八洲学園高等学校にとって教職員がここ数年取り組んできた、職員間のコミュニケーション強化と、研修や研究が生かされた期間になったのではないのでしょうか。更に、学校運営において新たな取り組みの開発、新たないろいろなことが学びにつながり、気づきにつながったことと思われます。

感染症や災害などの緊急時にも学校運営を途切れずに継続できるようリスクも検討しながら、今後も新しいことに、積極的に挑戦していく八洲学園高等学校に期待しています。